

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**

日本国特許
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
with this Office.

出願年月日

Date of Application:

2000年 5月23日

出願番号

Application Number:

特願2000-150925

出願人

Applicant(s):

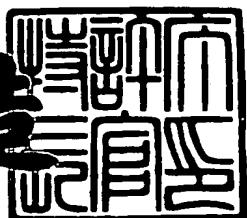
セイコーエプソン株式会社

11000 U.S. PRO
1109/032180
04/11/01

2001年 3月 2日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2001-3012319

【書類名】 特許願

【整理番号】 J0078460

【提出日】 平成12年 5月23日

【あて先】 特許庁長官 近藤 隆彦 殿

【国際特許分類】 B41J 2/175

【発明者】

【住所又は居所】 長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコーホームズ株式会社内

【氏名】 上條 雅則

【発明者】

【住所又は居所】 長野県諏訪市大和3丁目3番5号 セイコーホームズ株式会社内

【氏名】 石澤 卓

【特許出願人】

【識別番号】 000002369

【氏名又は名称】 セイコーホームズ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100101878

【弁理士】

【氏名又は名称】 木下 茂

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 063692

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0000257

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 記録装置用インクカートリッジ

【特許請求の範囲】

【請求項1】 内部にインクが封入され、可撓性素材により偏平状に形成された袋状のインクパックと、前記インクパックを収納すると共にカートリッジの外郭を構成するケースとにより構成され、且つ偏平状のインクパックにおける面方向が、ほぼ垂直に向くようにして記録装置に装填される記録装置用インクカートリッジであって、

前記インクパックを構成する少なくとも一方の可撓性素材には、インクパックの重力方向の下方に沿って、外面側に膨出するインク流路が成形されてなる記録装置用インクカートリッジ。

【請求項2】 前記インクパックを構成する可撓性素材をプレス成形することにより、前記インク流路を形成してなる請求項1に記載の記録装置用インクカートリッジ。

【請求項3】 前記インクパックの重力方向の下方に沿って形成されたインク流路が、インクパックの端部に配置されたインク導出口の近傍に達するように延長成形されてなる請求項1または請求項2に記載の記録装置用インクカートリッジ。

【請求項4】 前記ケースが気密状態に形成されて、記録装置への装填状態において、記録装置側からの空気圧がケース内部に印加することができるよう構成され、前記インクパックを空気圧によって加圧するようになされた請求項1乃至請求項3のいずれかに記載の記録装置用インクカートリッジ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、可撓性素材により偏平状に形成された袋状のインクパックを備え、カートリッジの外郭を構成するケース内に前記インクパックを収納してなるインクカートリッジに関し、特に偏平状のインクパックにおける面方向が、ほぼ垂直に向くようにして記録装置に装填される記録装置用インクカートリッジに関する

【0002】

【従来の技術】

インクジェット式記録装置は、一般にキャリッジ上に搭載されて記録用紙の幅方向に移動するインクジェット式記録ヘッドと、記録用紙を前記記録ヘッドの移動方向に対して直行する方向に相対的に移動させる紙送り手段が備えられ、印刷データに基づいて記録ヘッドよりインク滴を吐出させることにより記録用紙に対して印刷が行われる。

【0003】

一方、例えばオフィス向けまたは業務用に提供されるこの種の記録装置においては、比較的大量の印刷に対応させるために、大容量のインクカートリッジを配備する必要が生じ、このためにインクカートリッジを、例えば装置本体側に配置されたカートリッジホルダに装填させる形式の記録装置が提供されている。そして、記録ヘッドが搭載されたキャリッジ上には例えばサブタンクが配置され、前記各インクカートリッジから各サブタンクに対してインク補給チューブを介してそれぞれインクを補給し、さらに各サブタンクからそれぞれ記録ヘッドに対してインクを供給するように構成されている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、昨今においてはより大きな紙面に対して印刷を行うことが可能な、キャリッジの走査距離の長い大型の記録装置が要求されている。このような記録装置においては、スループットを向上させるために、記録ヘッドにおいては益々多ノズル化が図られている。さらに、スループットを向上させるために、印刷を実行しながらインクカートリッジからキャリッジに搭載された各サブタンクに対して逐次インクを補給することを可能とし、各サブタンクからそれぞれ記録ヘッドに対してインクを安定して供給するような記録装置が求められる。

【0005】

このような記録装置においては、インクカートリッジからサブタンクに対して、それぞれのインクに対応してインク補給チューブを接続する必要があり、キャ

リッジの走査距離が大きいために必然的にチューブの引き回し距離が増大する。しかも前記したとおり、記録ヘッドにおいては多ノズル化が図られているために、インクの消費量が多く、インクカートリッジからサブタンクに接続された各インク補給チューブ内においてインクの動圧（圧力損失）が高まり、サブタンクに対するインクの補給量が不足するという技術的課題を抱えている。

【0006】

このような課題を解決するための一つの手段として、例えばインクカートリッジ側に空気圧を印加し、インクカートリッジからサブタンクに対して空気圧によって強制的なインク流を発生させて、サブタンクに対して必要十分なインクを補給する構成が採用し得る。

【0007】

前記したような構成の記録装置に用いられるインクカートリッジとしては、外郭を構成するケースが気密状態となるように成形され、その内部にインクを封入した可撓性素材により形成されたインクパックが収納された構成が好適に採用し得る。このような構成におけるインクカートリッジにおけるインクパックは、ケース内に印加される加圧空気によってインクが押し出され、キャリッジに搭載された記録ヘッド側に送り出されるように作用する。

【0008】

この場合、インクパック内に封入されたインクは、インクパックの出口付近から減ってゆき、インク量が少なくなった場合には、例えばインクパックの中央部分が密着して塞いでしまうという現象が発生する。このために残りのインクがインクパックのインク導出口付近に到達できずに、インクパック内に相当量のインクを残留させたままで、インクカートリッジとしての寿命が尽きることになる。したがって、長期的にはユーザに対してランニングコストを強いる結果となり、また、カートリッジを廃棄処分する際ににおいても、残留するインクの処理等において負担が発生するという課題を抱えることになる。

【0009】

本発明は、このような課題に基づいてなされたものであり、特に偏平状のインクパックにおける面方向が、ほぼ垂直に向くようにして装填される記録装置に適

したインクカートリッジにおいて、インクの使用効率を向上させることができる記録装置用インクカートリッジを提供することを目的とするものである。

【0010】

【課題を解決するための手段】

前記した課題を解決するためになされた本発明にかかる記録装置用インクカートリッジは、内部にインクが封入され、可撓性素材により偏平状に形成された袋状のインクパックと、前記インクパックを収納すると共にカートリッジの外郭を構成するケースとにより構成され、且つ偏平状のインクパックにおける面方向が、ほぼ垂直に向くようにして記録装置に装填される記録装置用インクカートリッジであって、前記インクパックを構成する少なくとも一方の可撓性素材には、インクパックの重力方向の下方に沿って、外面側に膨出するインク流路を成形した構成とされる。

【0011】

この場合、インクパックを構成する可撓性素材をプレス成形することにより、前記インク流路を形成することが好ましい。さらに、前記インクパックの重力方向の下方に沿って形成されたインク流路が、インクパックの端部に配置されたインク導出口の近傍に達するように延長成形した構成とされることが好ましい。

【0012】

一方、本発明にかかる記録装置用インクカートリッジは、好ましくは前記ケースが気密状態に形成されると共に、記録装置への装填状態において、記録装置側からの空気圧がケース内部に印加することができるよう構成され、前記インクパックを空気圧によって加圧するようになされた形態に好適に採用される。

【0013】

以上のように構成されたインクカートリッジによれば、偏平状のインクパックにおける面方向が垂直方向に向くようにして記録装置に装填されると共に、インクパックを構成する可撓性素材には、その重力方向の下方に沿って外面側に膨出するインク流路が形成されているので、インクパック内のインク量が少なくなつた場合には、インクパック内の残りのインクは、重力にしたがって前記インク流路内に沿って集合するように作用する。そして、インク流路付近に集合した残り

のインクは、インク流路を介して出口部分に誘導するようになされるので、カートリッジのインクの使用効率を向上させることができる。

【0014】

この場合、インクパックの重力方向の下方に沿って形成された前記インク流路が、インクパックの端部に配置されたインク導出口の近傍に達するように延長成形した構成とすれば、インク導出口に対する残留インクの誘導作用を促進させることができ、カートリッジのインクの使用効率を、より向上させることに寄与できる。

【0015】

そして、前記した作用を実現させるために、インクパックを構成する少なくとも一方の可撓性素材に形成される外面側に膨出するインク流路は、例えばプレス成形を用いることにより容易に形成させることができ、したがって、インクカートリッジの製造コストにほとんど影響を与えることはない。

【0016】

さらに、記録装置に装填された状態でケース内に加圧空気が導入され、この加圧空気を受けてインクパック内に封入されたインクが導出されるように作用するインクカートリッジに前記構成を採用した場合においては、前記インクパックがたとえ空気による加圧力を受けても、例えばインクパックの中央部分が密着してインク流路を塞いでしまうという問題を回避することができる。

【0017】

【発明の実施の形態】

以下、本発明にかかる記録装置用インクカートリッジについて、図に示す実施の形態に基づいて説明する。まず、図1は本発明にかかるインクカートリッジを使用し得るインクジェット式記録装置の一例を示したものである。図1において符号1はキャリッジを示し、このキャリッジ1はキャリッジモータ2によって駆動されるタイミングベルト3を介し、走査ガイド部材4に案内されて紙送り部材5の長手方向、すなわち記録用紙の幅方向である主走査方向に往復移動されるように構成されている。そして、図1には示されていないが、キャリッジ1の紙送り部材5に対向する面には、後述するインクジェット式記録ヘッド6が搭載され

ている。

【0018】

また、キャリッジ1には前記記録ヘッドにインクを供給するためのサブタンク7a～7dが搭載されている。このサブタンク7a～7dは、この実施の形態においては、その内部において各インクを一時的に貯留するために、それぞれのインクに対応して4個具備されている。そして、この各サブタンク7a～7dには、装置本体に配置されたカートリッジホルダ8に装填されたインクカートリッジとしてのメインタンク9a～9dから、可撓性のインク補給チューブ10, 10, ……をそれぞれ介して、ブラック、イエロー、マゼンタおよびシアンの各インクが供給されるように構成されている。なお、前記したインクカートリッジとしての各メインタンク9a～9dは、後述するようにその外郭構成が偏平状に形成されており、前記カートリッジホルダ8において、偏平状の面がそれぞれ垂直方向に向くようにして装着されている。

【0019】

一方、前記キャリッジ1の移動経路上における非印字領域（ホームポジション）には、記録ヘッドのノズル形成面を封止することができるキャッピング手段11が配置されている。そして、キャリッジ1がホームポジションに移動したときに、前記キャッピング手段11によって、記録ヘッドのノズル形成面が封止することができるよう構成されている。

【0020】

このキャッピング手段11は、記録装置の休止期間中において記録ヘッドのノズル形成面を封止し、ノズル開口の乾燥を防止する蓋体として機能する。また、このキャッピング手段11には、図には示されていないが、吸引ポンプ（チューブポンプ）におけるチューブの一端が接続され、吸引ポンプによる負圧を記録ヘッドに作用させて、記録ヘッドからインクを吸引排出させるクリーニング動作が実行されるように構成されている。そして、キャッピング手段11に隣接する印字領域側には、ゴムなどの弾性素材により成形されたワイピング部材12が配置されていて、必要に応じて記録ヘッドのノズル形成面を拭いて清掃することができるよう構成されている。

【0021】

次に図2は、図1に示した記録装置に搭載されたインク供給システムの構成を模式的に示したものであり、このインク供給システムについて、それぞれ相当する各部を同一符号で示した図1と共に説明する。図1および図2において、符号21は空気加圧ポンプを示しており、この空気加圧ポンプ21により加圧された空気は、圧力調整弁22に供給され、さらに圧力検出器23を介して前記した各メインタンク9a～9d（図2においては代表して符号9として示しており、以下において代表して単に符号9として説明する場合もある。）にそれぞれ供給されるように構成されている。なお、前記圧力調整弁22は、空気加圧ポンプ21によって加圧された空気圧が所定以上に達した時に、圧力を開放して各メインタンク9a～9dに加わる空気圧を所定の範囲に維持させる機能を有している。

【0022】

さらに、前記圧力検出器23は、空気加圧ポンプ21によって加圧された空気圧を検知し、空気加圧ポンプ21の駆動を制御するように機能する。すなわち、空気加圧ポンプ21によって加圧された空気圧が所定の圧力に達したことを検出した場合には、空気加圧ポンプ21の駆動を停止させると共に、圧力検出器23によって定められた空気圧が所定の圧力以下となったことを検出した場合には、空気加圧ポンプ21を駆動させるように制御し、この繰り返しによって前記した各メインタンク9a～9dに加わる空気圧が所定の範囲に維持されるように機能する。

【0023】

前記メインタンク9としてのインクカートリッジの詳細な構成については後述するが、その概略構成は図2に示されたように、その外郭ケースが気密状態に形成されており、その内部にはインクを封入した可撓性素材により形成されたインクパック24が収納されている。そして、メインタンク9とインクパック24とで形成される空間が圧力室25を構成しており、この圧力室25内に、前記圧力検出器23を介した加圧空気が供給されるように構成されている。

【0024】

この構成により、各メインタンク9a～9dに収納された各インクパック24

は、それぞれ加圧空気による加圧を受け、各メインタンク9a～9dから各サブタンク7a～7dに対して所定の圧力によるインク流が発生されるように構成されている。

【0025】

前記各メインタンク9a～9dにおいて加圧されたインクは、図2に示されたようにそれぞれ各インク補給バルブ26および各インク補給チューブ10を介して、キャリッジ1に搭載された各サブタンク7a～7d（図2においては代表して符号7として示しており、以下において代表して単に符号7として説明する場合もある。）に供給されるように構成されている。

【0026】

図2に示すように、サブタンク7には内部にフロート部材31が配置されており、そのフロート部材31の一部には永久磁石32が取り付けられている。そしてホール素子に代表される磁電変換素子33a, 33bが基板34に装着されて、サブタンク7の側壁に添接されている。この構成により、フロート部材31に配置された永久磁石32と、フロート部材の浮上位置にしたがった前記永久磁石32による磁力線量に応じて、前記ホール素子33a, 33bにより電気的出力が発生されるインク量検出手段を構成している。

【0027】

したがって、例えばサブタンク7内のインク量が少なくなった場合には、サブタンク内に収納されたフロート部材31の位置が重力方向に移動し、これに伴い前記永久磁石32の位置も重力方向に移動する。それ故、永久磁石の移動によるホール素子33a, 33bの電気的出力は、サブタンク7内のインク量として感知することができ、ホール素子33a, 33bにより得られた電気的出力によって、前記インク補給バルブ26が開弁される。

【0028】

これにより、メインタンク9内で加圧されているインクは、インク量が低下したそれぞれのサブタンク7内に個別に送出される。そして、当該サブタンク7内におけるインク量が所定の容量に達した場合には、前記したホール素子33a, 33bの電気的出力に基づいて前記インク補給バルブ26が閉弁される。このよ

うな繰り返しにより、メインタンクからサブタンクに対して断続的にインクが補給されるように作用し、各サブタンクには常にほぼ一定の範囲のインクが貯留されるようになされる。

【0029】

そして、各サブタンク7からはバルブ35およびこれに接続されたチューブ36を介して記録ヘッド6に対してインクが供給されるように構成されており、記録ヘッド6の図示せぬアクチュエータに供給される印刷データに基づいて、記録ヘッド6のノズル形成面に形成されたノズル開口6aより、インク滴が吐出されるように作用する。なお、図2において符号11は、前記したキャッピング手段を示しており、このキャッピング手段11に接続されたチューブは図示せぬ吸引ポンプ（チューブポンプ）に接続されている。

【0030】

図3乃至図5は、以上のように構成されたインクジェット式記録装置に用いられるインクカートリッジとしての前記したメインタンクの例を示したものである。まず、図3はメインタンクの外郭を構成する下ケースの全体構成を示している。この下ケース41は偏平状の函型形状になされており、上面が開放されてその内部にはインクを封入した状態の前記インクパック24が収納されるように構成されている。

【0031】

この下ケースの周縁には、周縁の全周に沿って一連の被溶着面42がほぼ面一状に形成されている。また、下ケースの周縁には、一連の被溶着面42のさらに外周に沿って、立上り部43が一体に形成されている。なお、図5（B）には、図3におけるBで示す隅角部が拡大して示されている。

【0032】

この立上り部43は、後述するように第2の外郭構成部材としての上ケースを下ケースに対して振動溶着させる場合において、上ケースに形成されたダイレクタ（溶着子）が摩擦によって削りかすとなって生じ、これが飛散するのを防止するため形成されている。また、下ケース41の下底面、すなわち圧力室25を形成する面には、空気圧を受けて下ケースが変形するのを阻止する井桁状の補強

リブ44が形成されている。この補強リブ44は、下ケース41を例えればインジェクション成型する場合において予め一体に形成されており、後述するように上ケースが気密状態となるように接合されて、内部に圧力室が形成された場合において、内部に加わる空気圧による面に直交する方向のたわみの発生を、この井桁状の補強リブ44によって抑制するように作用する。

【0033】

換言すれば、前記したように井桁状の補強リブ44を形成させることによって、面に直交する方向における強度を増大させることができ、したがって、下ケースを形成する際の合成樹脂材料の使用量も少なくさせることにも寄与できる。この場合、前記補強リブ44はケースの外側に形成させても同様の補強効果を得ることができるが、ケースの外側に図3に示したような井桁状のリブ44を形成させた場合には、カートリッジの商品名や識別を示すマークなどを示したラベルの貼着が困難となる不都合があり、したがってリブ44は図3に示すように下ケースの下底面に施すことが望ましい。

【0034】

なお、図3に示されたように下ケース41の端部には、一対のガイド孔45が形成されており、このガイド孔45は後述する上ケースと共にインクカートリッジが構成された場合において、記録装置のカートリッジホルダに配置された一対のガイドピンに嵌合して位置決めされるように作用する。

【0035】

次に図4は、メインタンクの外郭を構成する上ケースの全体構成を、その内面方向から観た状態で示している。この上ケース51は偏平状にしてその中央部が若干くぼんだ函型形状になされており、前記した下ケース41に対して蓋体として機能するように構成されている。この上ケースの周縁には、前記した下ケース41の周縁に形成された一連の被溶着面42に当接して摩擦溶着される一連のダイレクタ（溶着子）52が面一状に形成されている。なお、図5（A）には、図4におけるAで示す隅角部が拡大して示されている。

【0036】

そして、上ケース51の天井下面、すなわち圧力室25を形成する面には、下

ケースと同様に空気圧による変形を阻止する井桁状の補強リブ53が形成されている。この補強リブ53は、上ケース51を例えればインジェクション成型する場合において予め一体に形成されており、下ケースに対して気密状態となるように接合されて、内部に圧力室が形成された場合において、内部に加わる空気圧による面に直交する方向のたわみの発生を、この井桁状の補強リブ53によって抑制するように作用する。このように、上ケース51においても、あえてその天井下面に補強リブ53を形成させることで、前記したと同様にカートリッジの表面に商品名や識別を示すマークなどを示したラベルの貼着に支障が発生しないように配慮されている。

【0037】

そして、前記した下ケース41内に予めインクを封入したインクパック24を収納し、上ケース51を振動溶着によって接合させることで、インクカートリッジの完成品を得ることができる。なお、図6はインクカートリッジの完成品におけるインク導出部分を断面図によって示したものであり、この図6と共にインクカートリッジの組み立て工程について説明する。まず、下ケース41内に予めインクを封入したインクパック24が収納される。この場合、下ケース41の側端部に形成された開口部46を介して、インクパック24を封止してインク導出口を構成する栓体24aを、下ケース41から外部に導出させる。

【0038】

この状態で、前記開口部46にOリング56を充てると共に、下ケース41の外部から環状の係合部材57を押し込むことで、インクパック24の栓体24aを下ケース41の前記開口部46に取り付けることができる。このように、環状の係合部材57によって開口部46に充てられたOリングを圧縮するようにしてインクパック24の栓体24aを取り付けるので、前記下ケース41に形成された開口部46と、インクパックの栓体24aとの間は気密状態とされる。このようにして、インクパック24を下ケース24内に装填した後に、下ケース41に對して上ケース51を重合し、振動溶着が実行される。

【0039】

そして、振動溶着を実行する場合には、下ケース41の周縁部は、図示せぬ振

動溶着治具によってその下方向から支えられ、下ケース41の被溶着面42に対して上ケース51のダイレクタ52が接するように載置される。そして上ケース51の周縁部は、図示せぬ他方の振動溶着治具によって上方向から押さえられ、重力方向に荷重を加えると共に、上ケース51を押さえる振動溶着治具が水平方向に振動動作を与えるように動作する。この動作によって、上ケース51に形成されたダイレクタ52は、下ケース41の被溶着面42に対して荷重が加えられつつ摺動される。

【0040】

したがって、その両者間において発生する摩擦熱により、上ケース51に形成されたダイレクタ52、および下ケース41の被溶着面42の一部がそれぞれ溶融される。そして、荷重を加えた状態で可動側の振動溶着治具における水平方向の振動動作を停止させることで、下ケース41に対して上ケース51が気密状態に接合される。このようにして構成されたインクカートリッジとしての外郭は、両者間における樹脂溶融により気密状態に接合させることができ、前記したようにインクカートリッジとしてのメインタンク内に空気圧を導入する構成のインクジェット式記録装置に好適に採用することができる。なお、図6において符号47は、前記した空気加圧ポンプによって生成される空気圧が供給される空気導入口を示している。

【0041】

図7乃至図9は、前記のようにして形成される外郭ケース内に収納されたインクパックの第1の実施の形態を示したものである。なお、図7はインクパック24を一面側から観た状態の斜視図で示しており、図8は、同じくインクパックを裏面側から観た状態の裏面図で示しており、さらに図9は、図7および図8におけるC-C切断部分を矢印方向に観た状態の拡大断面図で示している。このインクパック24は、矩形状に形成された2枚の可撓性素材、例えばポリエチレンフィルムが用いられ、ガスバリア性の向上のために、例えばアルミ泊等が表面にラミネートされている。

【0042】

そして、前記したインク導出口を構成する栓体24aが取り付けられた側端部

と、長手方向の側端部の三辺が、熱溶着によって接合されて袋状に形成されている。なお、符号24bは前記三辺に施された熱溶着部分を示す。前記のようにして袋状に形成されたインクパック24における残りの一辺における開口を利用して、インクパック24内にインクが導入される。そして、最後に残りの一辺が熱溶着によって接合されて、インクパック内にインクが封入された状態となれる。なお、符号24cは前記残りの一辺に施された熱溶着部分を示す。

【0043】

図7乃至図9に示されたように、インクパック24を構成する一方の可撓性素材、すなわち図9に24eとして示す一方の可撓性素材には、偏平状のインクパックにおける面方向が、ほぼ垂直に向くようにして配置された場合において、インクパックの重力方向の下方に沿って、外面側に膨出する膨出部61が連続的に形成されている。この膨出部61は、インクパック24として熱溶着により袋状に形成する以前の素材24eに対して、予めプレス成形により形成される。なお、この実施の形態においては、図9に示されたように一方の可撓性素材24eに対してのみ、前記膨出部61が形成されているが、他方の可撓性素材24dに対しても対向するように同様に形成されていても良い。

【0044】

前記したようにインクパック24は、空気圧によって加圧された状態になされるため、インクパック24がインクエンド状態に近付いた場合には、図9に示されたように空気圧を受けてインクパックを構成する2枚の可撓性素材24d, 24eが互いに密着されるようになされる。しかしながら、膨出部61の成形により、その内面部分にインク流路62が形成され、インクパック24内の残りのインクは、重力にしたがって前記インク流路内に沿って集合するように作用する。

【0045】

そして、図7および図8に示した実施の形態においては、インクパックの重力方向の下方に沿って形成された前記インク流路62が、インクパック端部のほぼ中央部に配置されたインク導出口としての栓体24aの近傍に達するように延長成形した構成とされているので、インク流路付近62に集合した残りのインクは、インク流路62を介して出口部分に誘導するようになされる。この結果、イン

クパック内のインクは、インク流路62に残留する僅かのインク量を残して、その殆どが空気圧によって記録装置側に導出させることができるので、その使用効率を向上させることができる。

【0046】

図10は、インクパックの第2の実施の形態を示したものである。なお、図10はすでに説明した図8と同様に、インクパック24を裏面側から観た状態で示しており、すでに説明した各部に相当する部分は同一符号で示している。この図10に示したインクパック24におけるC-C切断部分を矢印方向に観た状態は、前記した図9と同様に構成されている。そして、図7および図8に示した構成との相違点は、膨出部61によって内面に形成されるインク流路62は、重力方向の下方に沿ってほぼ一直線状に形成されている。

【0047】

このように、インク流路62が、重力方向の下方に沿って一直線状に形成されても、インク導出口としての栓体24aを封止した部分においては、物理的に空間部が形成されるため、この出口付近は空気圧によって密着される度合いは低い。したがって、インクエンド状態に近付いたインクパック内のインクは、一直線状に形成された膨出部61によって形成されるインク流路62を介して出口付近に誘導され、さらにインク導出口としての栓体24aを介して、記録装置側に導出させることができる。

【0048】

【発明の効果】

以上の説明で明らかなように、本発明にかかる記録装置用インクカートリッジによると、可撓性素材により偏平状に形成された袋状のインクパックが、カートリッジの外郭を構成するケース内に収納され、インクパックにおける面方向が、ほぼ垂直に向くようにして記録装置に装填されるようになされる。そして、インクパックを構成する少なくとも一方の可撓性素材には、インクパックの重力方向の下方に沿って、外面側に膨出するインク流路を成形したので、インクエンドに近い状態においては、残留インクは重力にしたがって前記インク流路内に誘導するようになされる。したがって、インク流路付近に集合した残留インクを効率的

に出口部分に誘導することができ、結果としてカートリッジのインクの使用効率を一層向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明にかかるインクカートリッジを使用し得るインクジェット式記録装置の一例を示した斜視図である。

【図2】

図1に示す記録装置におけるインクカートリッジから記録ヘッドに至るインク供給システムを示した模式図である。

【図3】

本発明にかかるインクカートリッジの外郭を構成する下ケースの構成を示した斜視図である。

【図4】

同じくインクカートリッジの外郭を構成する上ケースの構成を示した斜視図である。

【図5】

図4および図5に示した各ケースの隅角部における拡大図である。

【図6】

インクカートリッジの完成状態を示した一部の断面図である。

【図7】

前記カートリッジに収納されるインクパックを一面側から覗た状態の斜視図である。

【図8】

同じくインクパックを裏面側から覗た状態図である。

【図9】

図7および図8におけるC-C切断部分を矢印方向に覗た状態の拡大断面図である。

【図10】

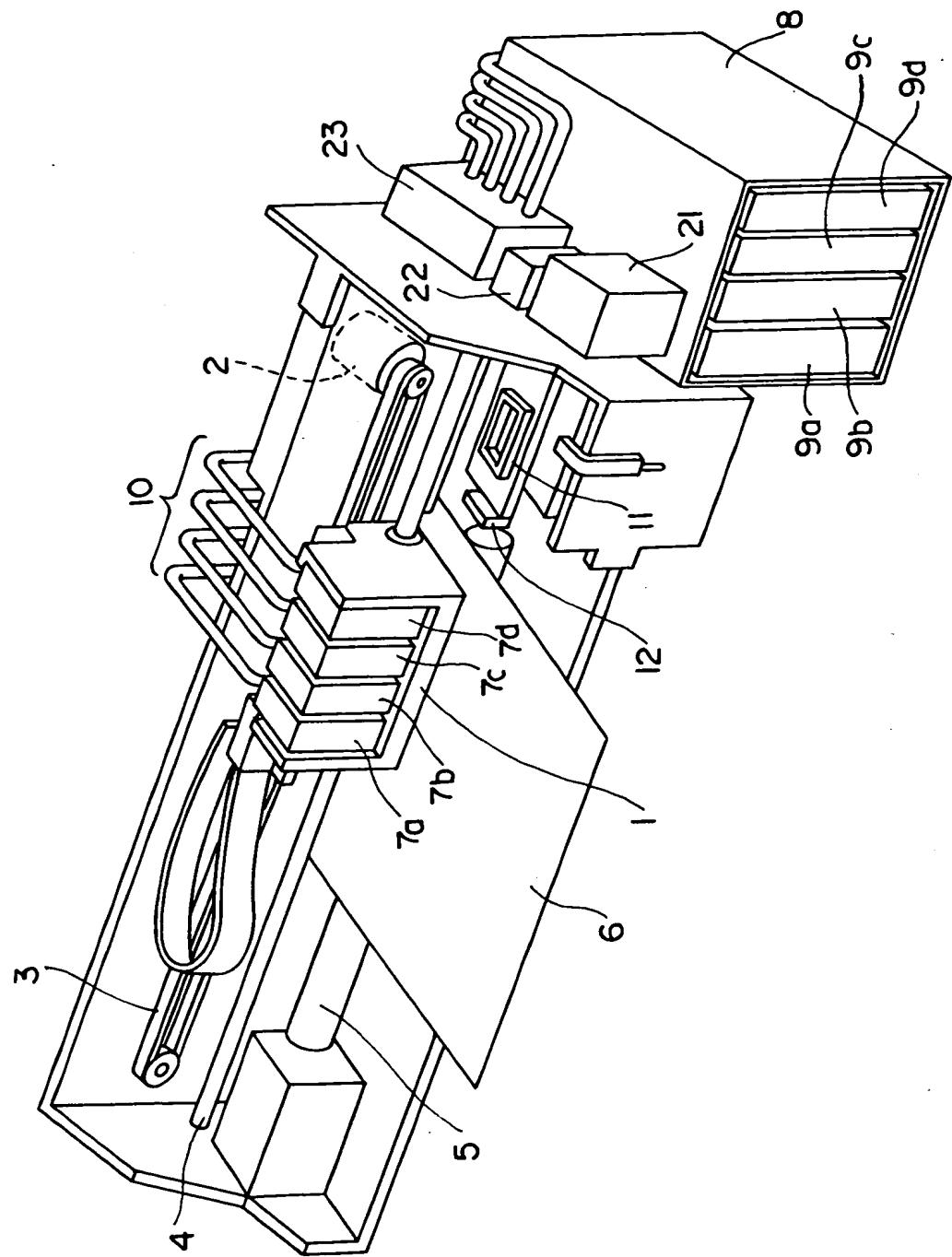
インクパックの第2の実施の形態を裏面側から覗た状態図である。

【符号の説明】

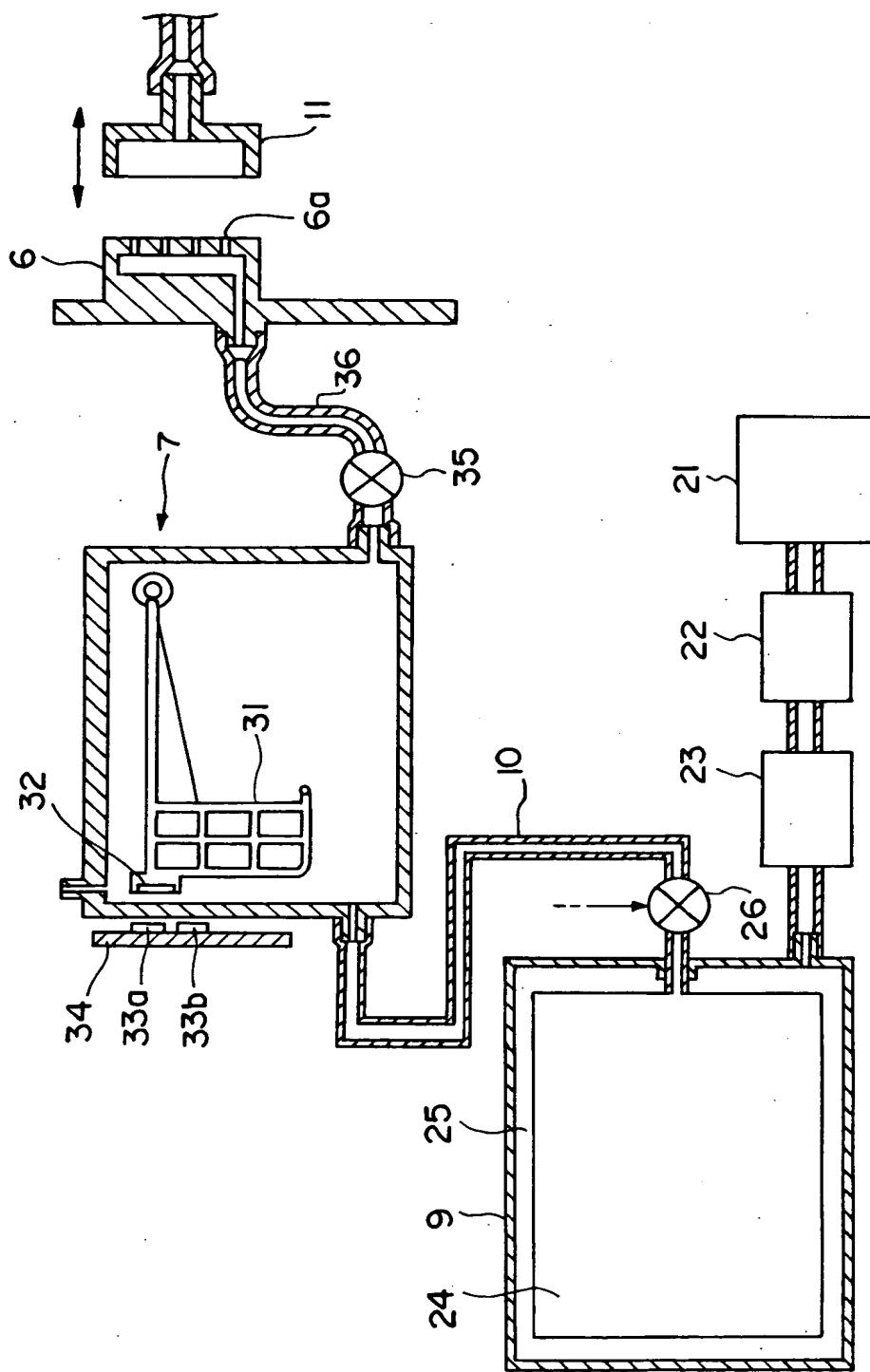
1	キャリッジ
6	記録ヘッド
7 (7 a, 7 b, 7 c, 7 d)	サブタンク
8	カートリッジホルダ
9 (9 a, 9 b, 9 c, 9 d)	メインタンク (インクカートリッジ)
10	インク補給チューブ
21	空気加圧ポンプ
22	圧力調整弁
23	圧力検出器
24	インクパック
24 a	栓体 (インク導出口)
24 b	熱溶着部
24 c	熱溶着部
25	圧力室
26	インク補給バルブ
41	下ケース
51	上ケース
61	膨出部
62	インク流路

【書類名】 図面

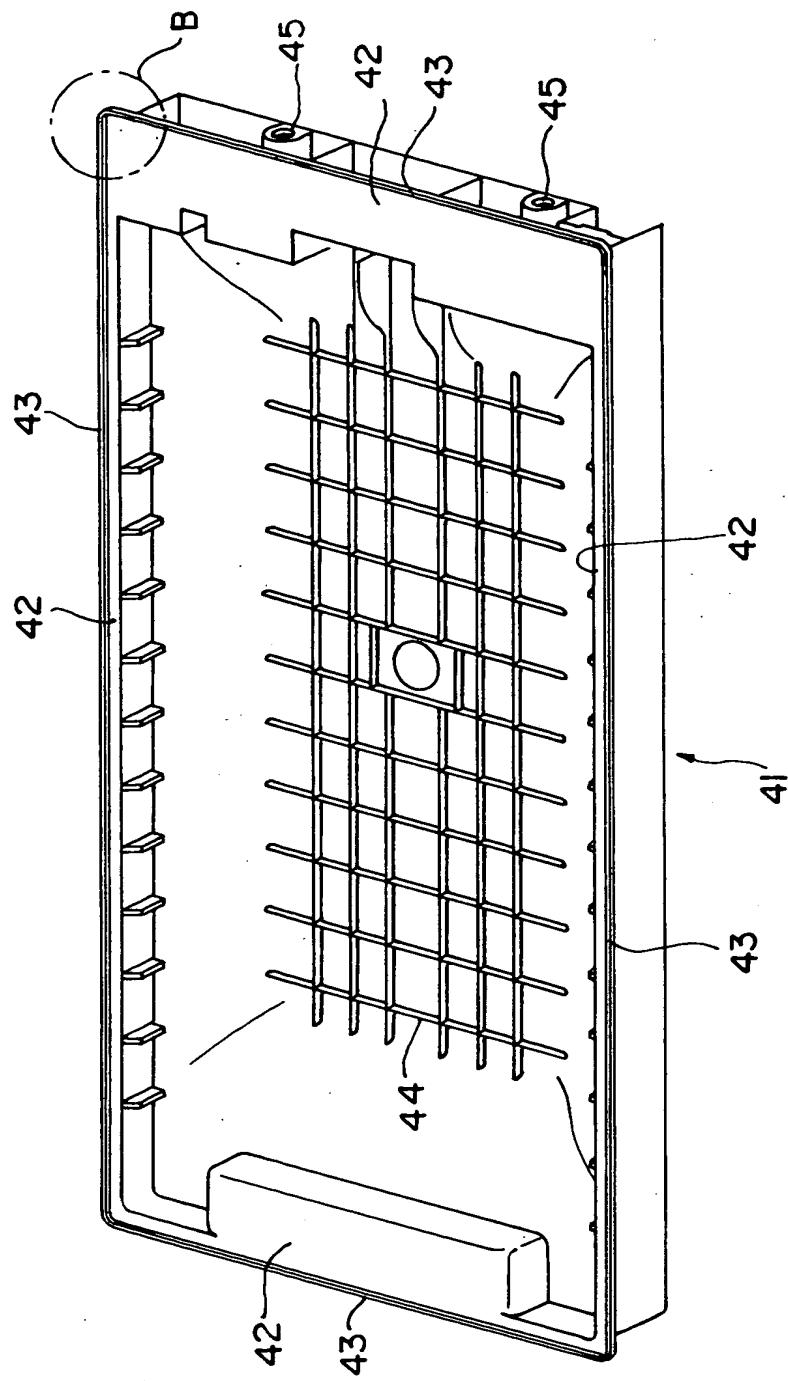
【図1】



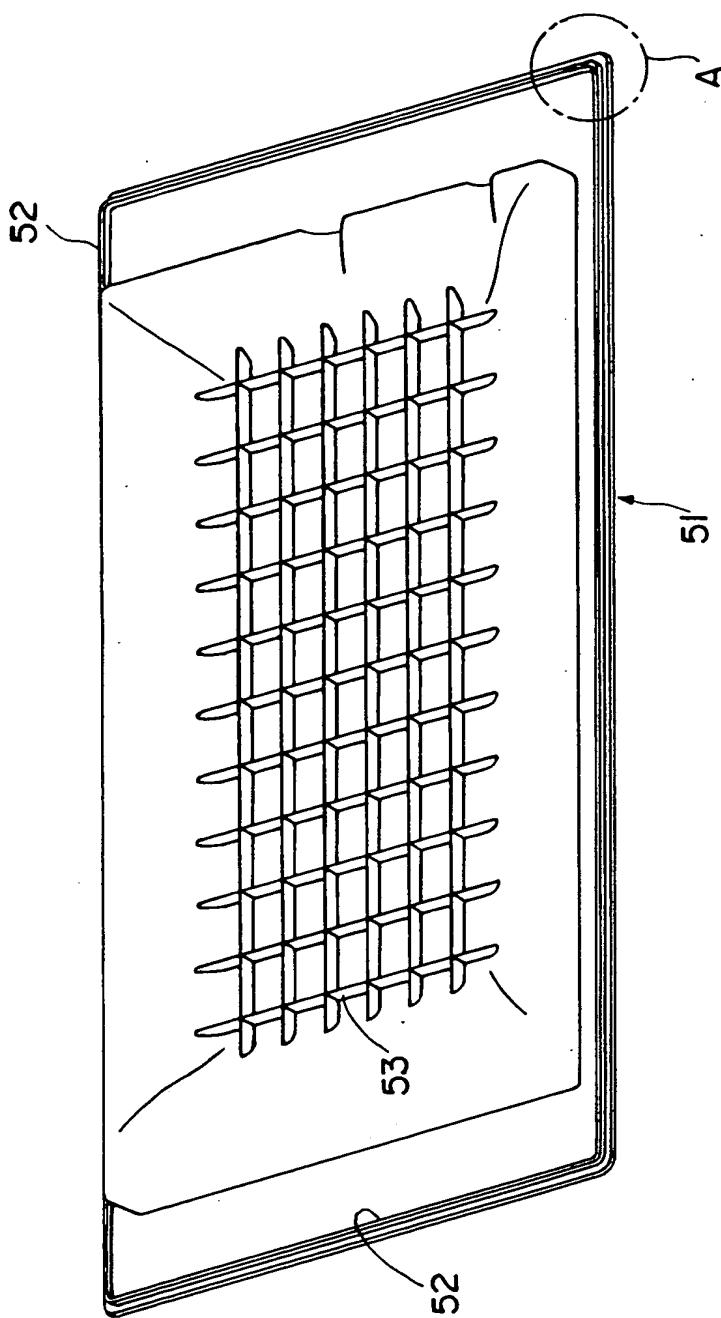
【図2】



【図3】

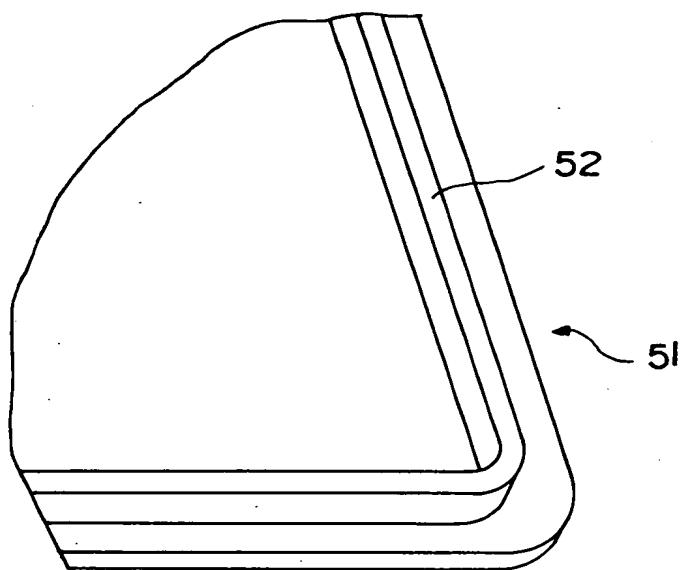


【図4】

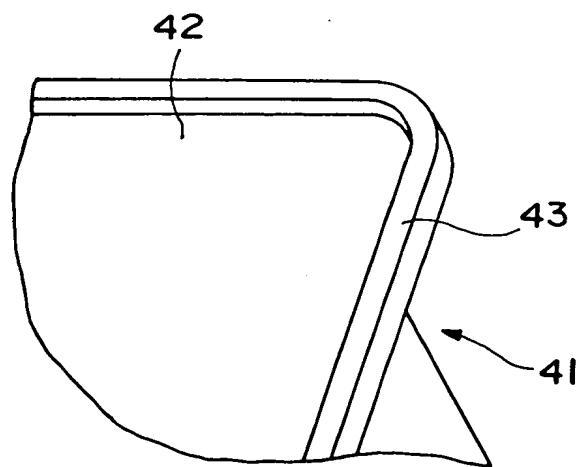


【図5】

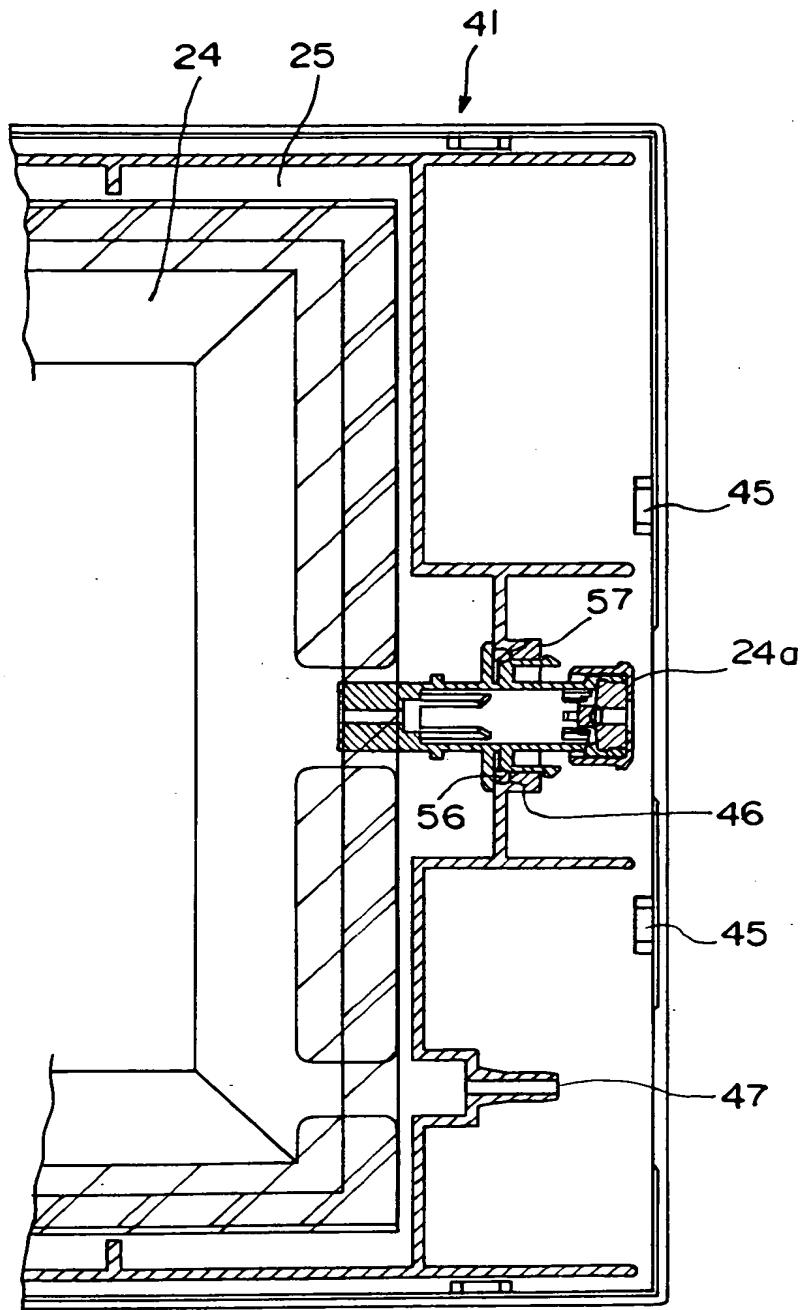
(A)



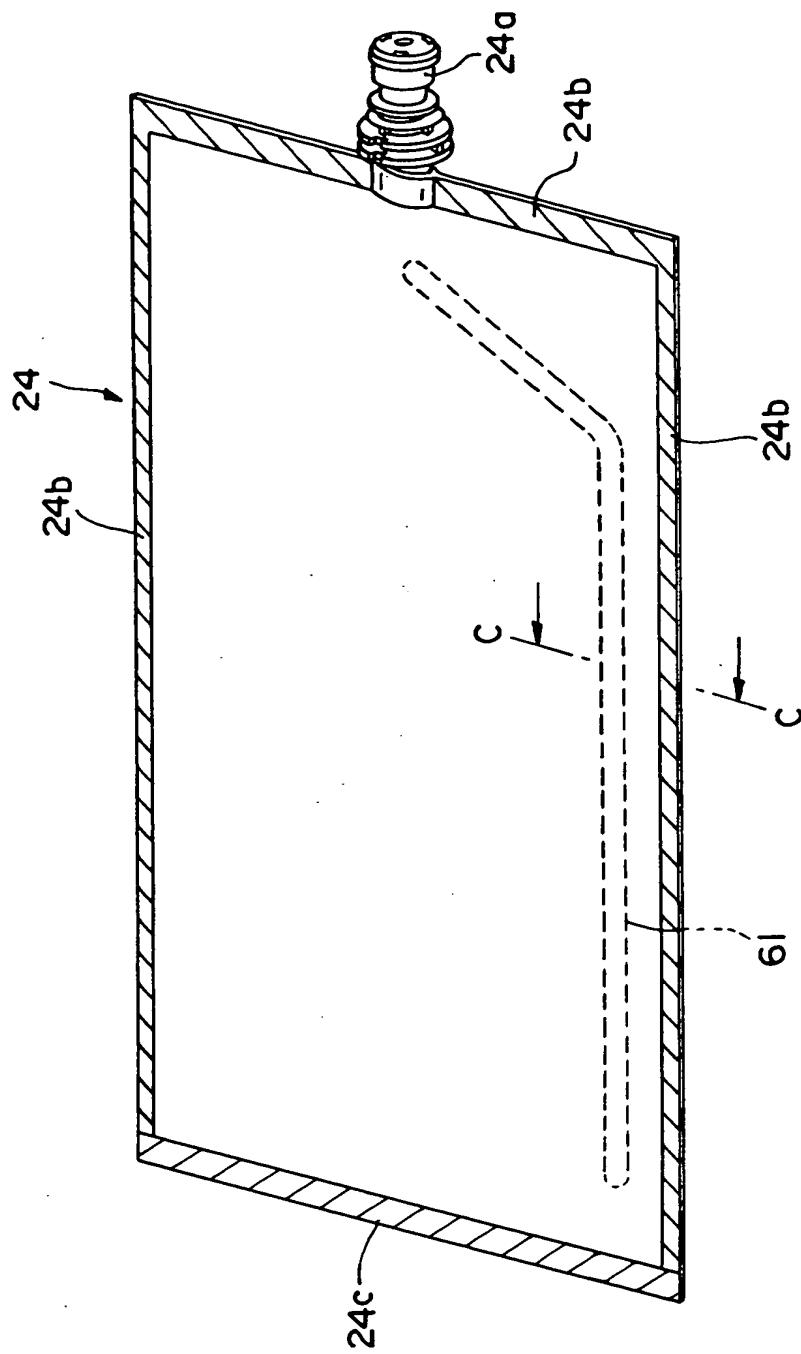
(B)



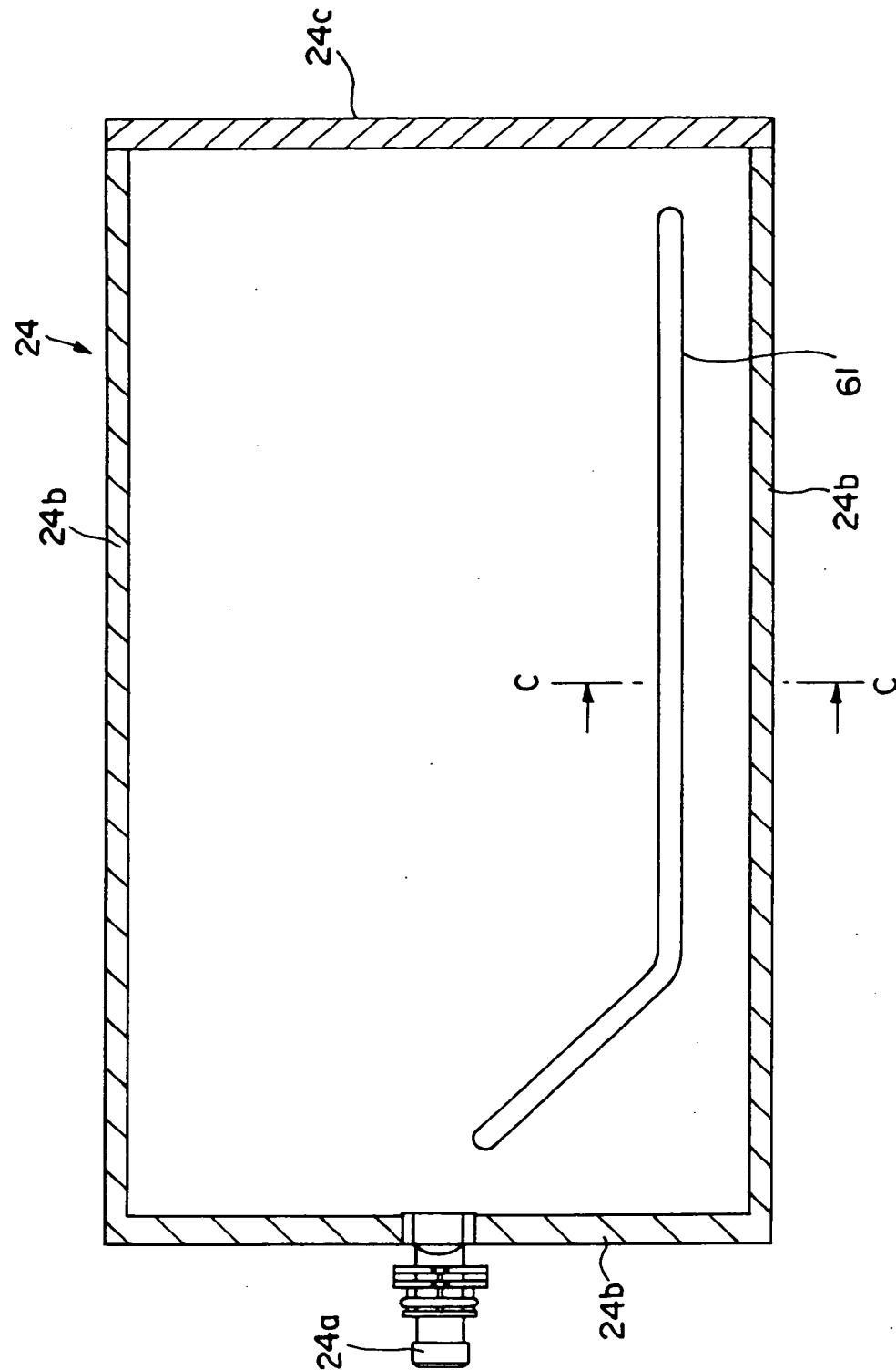
【図6】



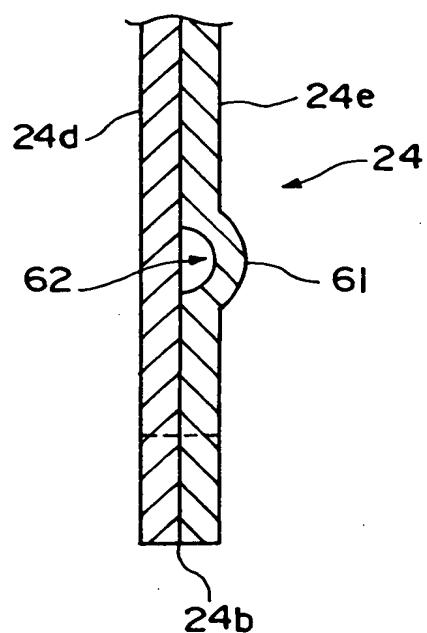
【図7】



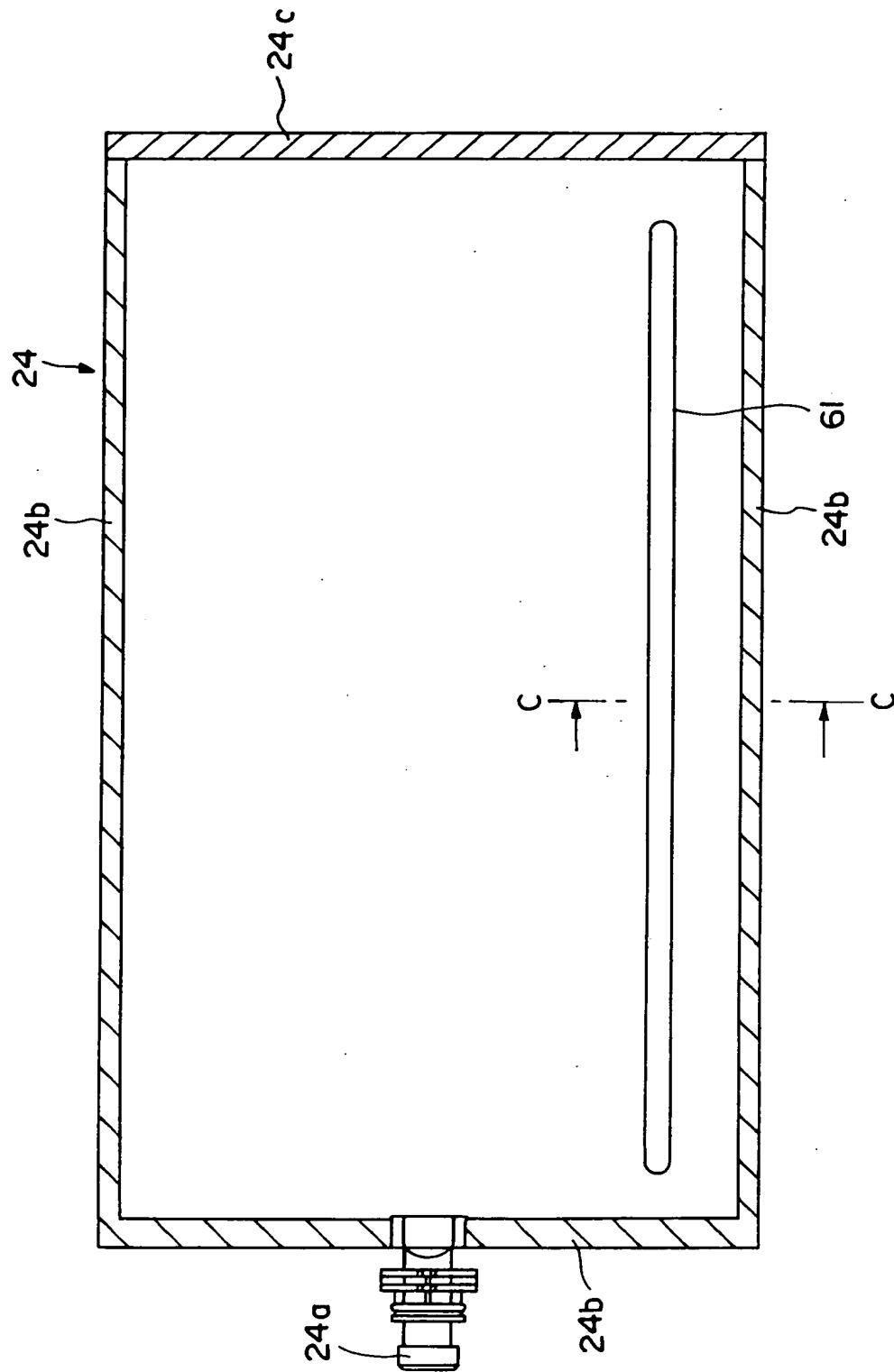
【図8】



【図9】



【図10】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 インクの使用効率を向上させることができる記録装置用インクカートリッジを提供すること。

【解決手段】 内部にインクが封入された偏平状のインクパック24は、その面方向がほぼ垂直に向くようにして記録装置に装填され、インクパックを構成する少なくとも一方の可撓性素材には、インクパックの重力方向の下方に沿って、外面側に膨出する膨出部61が形成される。この構成により、インクエンドに近い状態においては、残留インクは重力にしたがって膨出部61により形成されるインク流路内に誘導するようになされる。これにより、インク流路付近に集合した残留インクを効率的に出口部分に誘導することができ、インクカートリッジのインクの使用効率を向上させることができる。

【選択図】 図7

出願人履歴情報

識別番号 [000002369]

1. 変更年月日 1990年 8月20日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都新宿区西新宿2丁目4番1号
氏 名 セイコーエプソン株式会社